

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添

なし

応募概要	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	こうえきしやだんほうじん かんぜきゅうこうかい		
	制作団体名	公益社団法人観世九臘会		
	代表者職・氏名	理事長・観世 喜正		団体ウェブサイトURL https://yarai-nohgakudo.com/
	制作団体所在地	〒 162-0805	最寄駅(バス停)	東京メトロ東西線神楽坂駅
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒	最寄駅(バス停)	
	制作団体 設立年月	昭和27年9月		
	制作団体組織	役職員 【代表理事】観世喜正 【常務理事】2名 弘田裕一、駒瀬直也 【他 理事】9名 【監事】2名 【法人社員】33名(個人会員・能楽師) 【事務局】常勤職員4名、非常勤職員6名	団体構成員及び加入条件等 【社員】(個人会員・能楽師)33名 【入会資格】 (公益社団法人観世九臘会 定款第6条より抜粋) 1) 正会員この法人の目的及び事業に賛同して入会した、満20歳以上で、観世流の能楽師個人。	
	事務体制 事務(制作)専任担当者の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	芝田 裕之
	経理処理等の監査担当の有無	有	経理担当者	瀬木 さとみ
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス yarai_s@abeam.ocn.ne.jp	電話番号	0332687311

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> 能楽 観世流の演能団体。 全国各地に門弟を有し、東京都新宿区に矢来能楽堂を所有し運営している。ほか、大阪市に九臯会館として稽古能舞台を所有し、運営管理している。 明治期に観世流分家の観世鍊之丞家から出た観世清之が門をなし、明治40(1907)年文献上「九臯会」が初見。この頃より演能会を開催。 現当主は4代目。三世観世喜之。 明治44(1911)年に初世観世喜之が神田西小川町にて能舞台を構え、昭和5(1930)年に現在の神楽坂に移転するが昭和20(1945)年戦災で消失。 昭和27(1952)年 現在の矢来能楽堂を再建。 同年文部省所管での社団法人「観世九臯会」認可。 平成23(2011)年 保有する「矢来能楽堂」が国の登録有形文化財の認定を受ける。 平成24(2012)年内閣府所管公益社団法人の移行認定。 団体設立時より継続的に定例公演を行い、全国各地にて能楽の公演を行う。
	学校等における公演実績	<ul style="list-style-type: none"> 文化服装学院校外教室 (昭和33年より60年以上にわたり毎年開催) 日本女子大学付属中学校 能狂言鑑賞会(昭和58年より40年以上にわたり毎年開催) 新宿区牛込地区小学校 能狂言鑑賞会(昭和59年より40年以上にわたり毎年開催) 日本外国语専門学校 能狂言鑑賞会(平成24年より10年以上にわたり毎年開催) 穎明館中学校 能狂言鑑賞教室(平成17年より20年以上にわたり毎年開催) 三輪田学院高等学校 能狂言鑑賞教室(平成31年より5年以上にわたり毎年開催) 京都府京丹後市にて小中学生向け能楽講座・鑑賞会(平成20年より15年以上にわたり継続的に開催) 兵庫県豊岡市など但馬地方の小中学校にて能楽講座(平成29年より7年以上にわたり断続的に開催) 矢来能楽堂において、 静岡県、長野県などから小学生修学旅行の狂言鑑賞教室の実施(年間約10数校)
	特別支援学校等における公演実績	千葉県立千葉聾学校にて、令和7年度巡回公演を実施。

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://www.youtube.com/watch?v=lYwAa9w4gtw	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	なし
		PW:	なし

別添

あり

【公演団体名

公益社団法人観世九臘会

】

対象	小学生(低学年)	<input type="radio"/>	小学生(中学年)	<input type="radio"/>
	小学生(高学年)	<input type="radio"/>	中学生	<input type="radio"/>
企画名	能楽を学んでみよう！「土蜘蛛」			
企画のねらい	<p>日本の伝統芸能である「能」と「狂言」を合わせて「能楽」と言います。</p> <p>小学校六年次の「国語の教科書」において「狂言」が、中学校二年次以降の「音楽の教科書」に置いて「能」や「和楽器」が数ページにわたり取り上げられていることを踏まえ、小中学生の生徒達に、「能楽」の実演を鑑賞してもらいます。</p> <p>伝統芸能であるが故に、ともすれば教員側も難しく感じている「能楽」を、「解りやすく」「楽しく」鑑賞。そして「体験」できるよう構成しています。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p>狂言「柿山伏(かきやまぶし)」の鑑賞と鑑賞後の狂言体験。</p> <p>能「土蜘蛛」の鑑賞と能で使われる和楽器についての紹介 をします。</p> <p>1、狂言「柿山伏」 【演目概要】 ・旅の途中畠の柿の木に登り、柿を盗み食いする山伏がいます。 ・見廻りに来た畠主が見咎め、懲らしめの為動物の鳴き真似をさせます。 ・柿の木から飛び降り、足腰を痛めた山伏は畠主に治療を求めるが、 ・神通力を持つはずの山伏が滑稽に描かれています。</p> <p>【演目選択理由】 ①「柿山伏」は、小学校六年生の国語の教科書の大部分において取り上げられています。 ②鑑賞した子供達が、思わず「真似したくなる」セリフや動きが多く含まれており、真似することで追体験が可能です。 自然に古典の要素を身につけることに繋がります。 ③小学校低学年から中学生まで、楽しく鑑賞できます。 ④狂言の本質である「おかしみ」「滑稽さ」が存分に活かされており、教員が授業で狂言を取り上げる時にも、役立つことができます。 ⑤演劇性や音楽性の高い能に加えて、コント的要素を持つ狂言も鑑賞することで、バランスのよい鑑賞教室とすることができます。</p> <p>2、能「土蜘蛛」 【演目概要】 平安時代、藤原道長に仕えた武将・源頼光による、妖怪・土蜘蛛を退治する物語。 ・病に臥せる源頼光(みなもとのらいこう)のもとに怪しげな僧が現れます。 僧は巨大な蜘蛛となって頼光めがけ蜘蛛の糸を投げかけますが、頼光が名刀「膝丸・蜘蛛切丸」で斬りつけると、傷を負った蜘蛛は姿を消します。 ・頼光の家来独武者(ひとりむしゃ)は、供の武士を伴い土蜘蛛の棲む塚に赴き、現れた妖怪土蜘蛛と戦います。妖怪土蜘蛛は千筋の蜘蛛の糸で応戦しますが、ついには土蜘蛛も独武者たちによって退治されます。</p> <p>【演目選択理由】 ①これまでの学校での鑑賞授業の経験上、「一番楽しい演目」であると、児童・生徒はもとより、教員の皆様からもたいへん好評を得ています。 ②我が国の誇る古典文学の平家物語を題材としながらも、鬼退治のわかりやすい物語と、蜘蛛が小道具の糸を投げる見た目の華やかさで、児童・生徒たちに能楽の面白さを理解してもらえます。 ③、①と②については、昨年度までに頂戴した本事業における学校側からの鑑賞の感想文にも、「貴重な機会なので全校児童で鑑賞させていただきましたが、(小学)一年生でも厭されることなく集中して鑑賞していました。(令和5年度の感想文より引用)」との評価を頂いており、小学校低学年でも、蜘蛛の糸が飛ぶと声を上げるなど、素直に能という演劇を楽しむ姿が見られます。 「土蜘蛛」を演目として選択する重要な根拠となっています。 ④閑かでゆったりとしているイメージの強い能ですが、躍动感のある華やかな動きと、迫力の有る囃子音楽で、目と耳の両方で楽しめます。</p> <p>なお「土蜘蛛」は前・後半の二場面物ですが、前段をダイジェスト版として上演時間の短縮を図り、授業時間内収まるようにし、後段の蜘蛛の糸を投げる妖怪と侍が対決するハイライトシーンに主眼を置きをすることで、生徒達が解りやすく鑑賞できるように演出を工夫してあります。</p>			

本公演・ワークショップの内容

児童・生徒の参加または体験の形態	<p><本公演の実施形態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本公演の流れ ①全体解説 ②狂言の鑑賞 ③能の和楽器解説 ④能の鑑賞 ⑤狂言体験 ⑥質疑応答 <p>①【全体解説】 演目の見どころについて解説いたします。 事前ワークショップに参加していない児童・生徒も演目の内容を知ることができます。</p> <p>②【狂言の鑑賞】(別添資料あり)</p> <p><実施形態> 狂言「柿山伏」を鑑賞します。</p> <p>③【能の和楽器解説】</p> <p><実施形態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏者による模範演奏と楽器説明。 ・手拍子で合奏します。 <p><体験形態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・能で使用する四種類の和楽器(笛・小鼓・大鼓・太鼓)の音色を聴き比べます。また素材の説明を聞くことで、西洋から伝わった楽器に慣れている子供達に、和楽器の魅力を伝えます。 ・小鼓や大鼓の演奏パートを、生徒達は手拍子で演奏する練習をします。その後プロの演者との合奏に挑戦します。 <p><効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の教科書に掲載されている和楽器を、プロの演者による実演・解説で実際の和楽器をもとに学習できます。 ・小学生には、中学校になったときに授業で習ったときの事前体験として役に立ちます。 ・音楽の先生にとっても、楽しみながら授業の参考としてご覧いただけます。 <p>④【能の鑑賞】(別添資料あり)</p> <p>能「土蜘蛛」を鑑賞します。</p> <p>⑤【狂言体験】(別添資料あり)</p> <p>「柿山伏」ならではの、狂言役者が動物のモノマネをするという場面から、昔の人の用いていた動物の鳴き声の表現や仕草などを知り、体験出来ます。</p> <p>狂言を通じて、昔の人々の感性に触れることができます。</p> <p><実施形態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・狂言の演者が狂言の所作を指導します。 ・代表児童・生徒は舞台上で、その他の児童・生徒はその場で体験していただきます。 <p><体験形態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞した「柿山伏」で演じられた動物の物まねを全員で体験します。 ・狂言独特の構え方や、喜怒哀楽の表現である笑いや泣く所作等を全員で体験します。 <p>⑥【質疑応答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本公演の最後に、児童・生徒からの質疑応答を行います。 ・「和楽器の模範演奏・解説」および「狂言体験」を児童・生徒の体験後は、小鼓などの楽器の特徴について、またプロの能楽師になるには、など多くの質問が出ます。 <p>本公演終了後には、狂言のセリフを皆で口ずさみながら楽しそうに盛り上がっている児童・生徒達を見るできます。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	<p>本公演</p>	<p>参加・体験人数目安</p> <p>鑑賞人數目安</p>	<p>体験代表生徒数:12名</p> <p>体育館または会場の入場可能人数まで</p>

本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>①全体解説(小学校10分・中学校15分)</p> <p>②狂言「柿山伏」 原作/作曲/脚本等:作者未詳 上演時間(15分)</p> <p>③能の和楽器解説(20分)</p> <p>④能「土蜘蛛」 原作/作曲/脚本等:作者未詳(典拠「平家物語」巻) 上演時間 (20分)</p> <p>⑤狂言体験(20分)</p> <p>⑥質問応答(小学校5分・中学校10分)</p>		
	公演時間	90~100	分

出演者	<p>①能「土蜘蛛」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シテ方: 観世喜正、弘田裕一、駒瀬直也、中所宜夫、遠藤和久、奥川恒治、遠藤喜久、鈴木啓吾、永島充、佐久間二郎、坂真太郎、長山耕三、桑田貴志(以上13名が重要無形文化財総合指定保持者)、中森健之介、新井麻衣子、奥川恒成、石井寛人、金子仁智翔(以上18名の観世九卓会所属能楽師より公演ごとに11名を選定) ・ワキ方: 宝生常三、大日方寛(重要無形文化財総合指定保持者を含め、公演により出演者が変わります) ・囃子方: 竹市学(名古屋市芸術創造賞受賞)、幸正昭、亀井広忠、大川典良(重要無形文化財総合指定者を含め、公演により出演者が変わります) <p>②狂言「柿山伏」</p> <p>・狂言方: 善竹大二郎、大藏教義、上田圭輔(重要無形文化財総合指定者を含め、公演により出演者が変わります)</p>																										
	<p>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名</p> <p>①観世喜正／観世流シテ方 重要無形文化財「能楽」総合指定保持者、公益社団法人観世九卓会理事長 国内外の公演出演のほか、指導、企画制作にも多数携わる。 法政大学大学院および皇學館大學非常勤講師、シンガポール演劇学校I.T.I能楽講師。 教育出版の中学校「音楽」の教科書にも、観世喜正の演能写真が掲載されています。</p> <p>②善竹大二郎／大藏流狂言師 一般社団法人善竹狂言事務所代表理事。駒澤大学外部講師。 国内外の能楽公演出演のほか、普及公演や学校での鑑賞教室にも多数携わる。</p> <p>③亀井広忠／葛野流大鼓方十五世家元 2004年ピクター伝統文化振興財団賞奨励賞、2007年第14回日本伝統文化奨励賞、 2023年ボーラ伝統文化振興財団、伝統文化ボーラ賞優秀賞、第45回観世寿夫記念法政大学能楽賞等受賞多数。</p>																										
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	<table border="1"> <tr> <td>出演者:</td><td>20名</td><td rowspan="3" style="text-align: center;">運搬</td><td>積載量:</td><td>0.35t</td></tr> <tr> <td>スタッフ:</td><td>1名</td><td>車長:</td><td>4.7m</td></tr> <tr> <td>合計:</td><td>21名</td><td>台数:</td><td>1台</td></tr> </table>	出演者:	20名	運搬	積載量:	0.35t	スタッフ:	1名	車長:	4.7m	合計:	21名	台数:	1台													
出演者:	20名	運搬	積載量:		0.35t																						
スタッフ:	1名		車長:		4.7m																						
合計:	21名		台数:	1台																							
本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の目安	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">前日仕込</td><td>無</td><td colspan="2">前日仕込所要時間</td><td></td></tr> <tr> <td>到着</td><td colspan="2">仕込</td><td>上演</td><td>内休憩</td><td>撤去</td></tr> <tr> <td>12:00</td><td colspan="2">12:00～13:00</td><td>13:30～15:10</td><td>10分</td><td>15:20～16:00</td></tr> <tr> <td colspan="6">※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。</td></tr> </table>	前日仕込		無	前日仕込所要時間			到着	仕込		上演	内休憩	撤去	12:00	12:00～13:00		13:30～15:10	10分	15:20～16:00	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。							時間程度
前日仕込		無	前日仕込所要時間																								
到着	仕込		上演	内休憩	撤去																						
12:00	12:00～13:00		13:30～15:10	10分	15:20～16:00																						
※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。																											
本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期について、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。	<table border="1"> <tr> <td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td></tr> <tr> <td>20日</td><td>20日</td><td>14日</td><td>20日</td></tr> <tr> <td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td></tr> <tr> <td>20日</td><td>15日</td><td>16日</td><td>15日</td></tr> <tr> <td colspan="2">※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</td><td>計</td><td>140日</td></tr> </table>	6月	7月	8月	9月	20日	20日	14日	20日	10月	11月	12月	1月	20日	15日	16日	15日	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。		計	140日						
6月	7月	8月	9月																								
20日	20日	14日	20日																								
10月	11月	12月	1月																								
20日	15日	16日	15日																								
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。		計	140日																								
本公演・ワークショップの内容	<p>舞台は、体育館の広さや、鑑賞人数により、ステージ上、フロア上のいずれに設置するか、実施校様と相談の上、決めさせていただきます。 演目の上演の様子は「別添」資料を参照ください。</p> <p>(図1) フロア上に舞台を設置した様子</p>  <p>(図2) ステージ上に舞台を設置した様子</p> 																										
公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真) ※会場条件につ	<p>各種上演権、使用権等の許諾手続の要否</p> <table border="1"> <tr> <td>該当事項がある場合</td> <td>権利者名</td> <td></td> </tr> </table>	該当事項がある場合	権利者名		該当なし	該当コンテンツ名																					
該当事項がある場合	権利者名																										
著作権、上演権等の許諾状況		許諾確認状況																									

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

あり

【公演団体名 公益社団法人観世九臘会】

ワークショップの内容	ワークショップのねらい	<p>『伝統芸能を身近に』</p> <p>①古典のセリフを大きな声に出して、リズムや発声を体験してみる。 ②能の動きを、実際に体を使って動いて、姿勢や歩き方を体験してみる。 ③能面をかけて歩いて、能面の視野の狭さを実感してみる。</p> <p>ことにより、古典芸能を身近に感じることができます。</p>		
	児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人數目安	体育館または会場の入場可能人數まで
	<p>【能楽について説明】(別添資料あり) 能楽の歴史や特徴、本公司で上演する演目について説明します。</p> <p>＜テキスト＞(別添資料あり) 能楽の理解を深めるため写真を多く載せたテキストを使用いたします。</p> <p>＜あらすじ、みどころ＞ 能『土蜘蛛』について、プロジェクトを用いて【紙芝居形式】で、見やすく解説します。 動画や映像資料で簡単に流し見をするのではなく、あえて紙芝居とすることにより、子供達の想像力を掻き立てます。また、本公司での実演を鑑賞することへの期待感が高まります。 これまで実施してきた学校からも好評をいただいており、分かりやすさ、新鮮さという意味で小学生、中学生共に楽しんで内容を理解してくれています。</p> <p>【体験】 能楽についても説明の後、下記の体験をしていただきます。</p> <p>＜謡(うたい)の体験＞ 能『土蜘蛛』の一節を全員で謡で体験します。 本公司での能『土蜘蛛』上演時に、体験した謡の部分の場面にくると、気づき、聞き取れるようになります。</p> <p>＜すり足体験＞ (別添資料あり) 生徒全員で能の動きの基本となる ①身体の構え型を体験します。 ②足の運び(すり足)で美しい姿勢で歩く体験をします。</p> <p>＜能面をつける＞ (別添資料あり) 檜や桐で作られた本物の能面を見てもらい、能面の特徴を説明します。 その後生徒達には、厚紙に印刷した能面を全員に配ります。 ①生徒全員で厚紙製の能面をかけて、すり足で歩く体験をします。 ②視野の制約のある中での能役者の動きを経験します。 ③代表生徒のほか、先生にも参加していただくことで、児童・生徒たちの注目度も上がり、盛り上がりが期待できます。 これまでの実施校でも、生徒、先生方から好評を得ています。</p> <p>【成果】 ①これまでの実施校では、体験後に ②謡の体験による、腹式呼吸での正しい発声は、意思を明確に伝える等、将来的に様々な場面で、大いに役立つものと思われます。 ③先生にも体験に参加していただくことで、児童・生徒たちの集中力も上がり、また体験も盛り上がりが期待できます。 ④体の構えや、すり足を体験することにより、体幹や姿勢の大切さを感じていただくことができます。</p>			
	その他ワークショップに関する特記事項等	特になし		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名】 公益社団法人観世九臘会】

記載方法等	例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。				
	・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。				
	・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。				
	・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。				
上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。					
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。					
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただることになります。					
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。					

会場条件	(必須) 公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。				
	会場の設置階の制限	条件なし	主幹引き込み電源容量		A以上
	舞台設置面積	間口	10 m	奥行	4.5 m
		高さ	制限なし	m	
	舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応	可
	搬入間口の広さ	幅	1.5 m	高さ	1.8 m
	遮光の要否	不要	縫帳の要否	あれば使用する可能性がある	
	ピアノの使用について	使用しない	ピアノを使用する場合の設置位置の指定		
			ピアノを使用しない場合の移動の要否	要	
	搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談	トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		30 m以内
	搬入車両の種類	ハイエース	台数	1 台	
	搬入車両の大きさ	車幅	1.69 m	車長	4.76 m
	備考				

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報	(任意) 学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。				
	会場図面の提出要否				
	その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)				

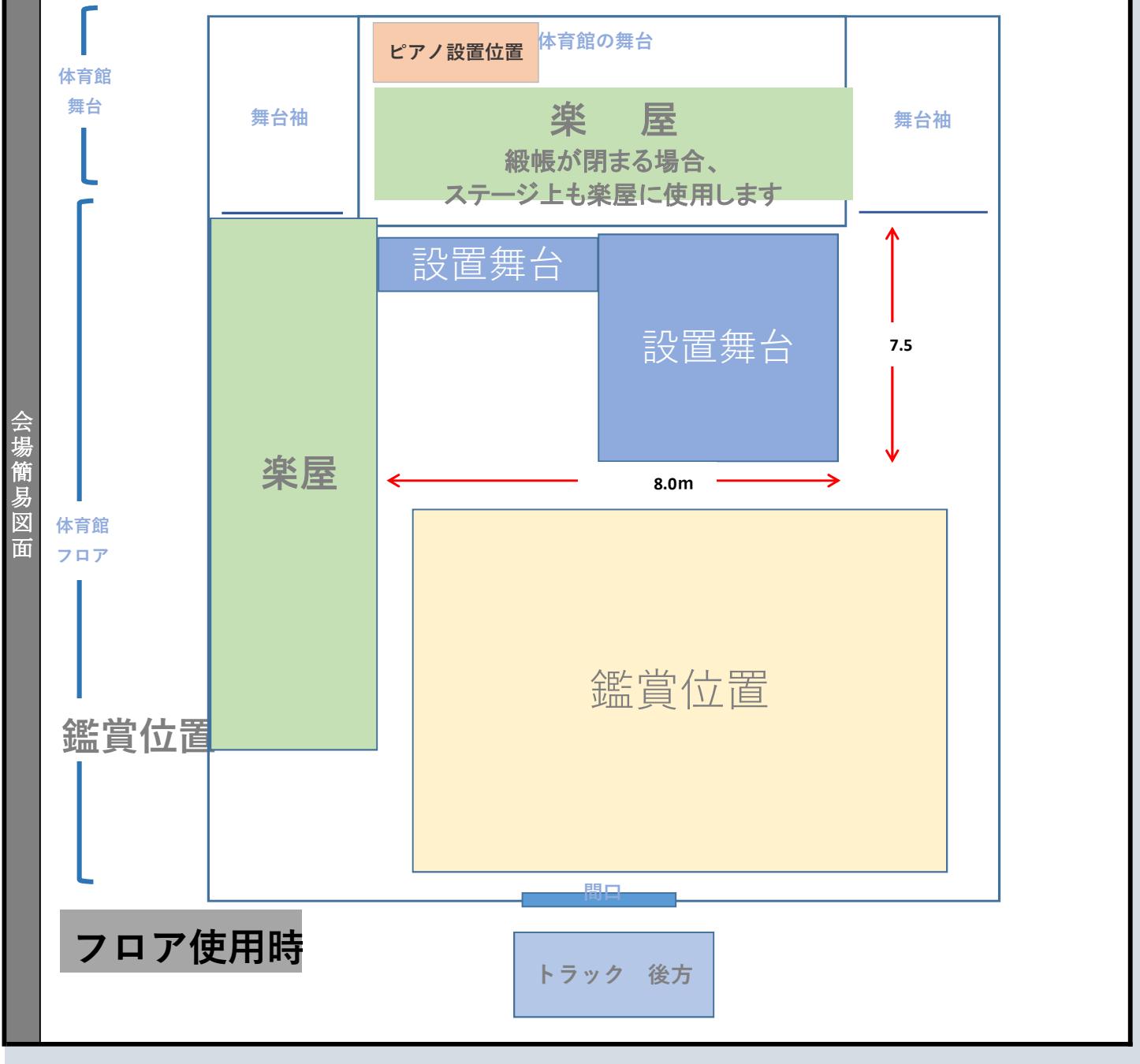
時間外対応	(任意)		万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。		
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。				
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。				
	対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ				
ワークショップ					
本公演					
本公演					

個別確認事項	(任意)		上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。		
	個別ヒアリング事項				
	1				
	2				
3					

(任意)

会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。



別添

なし

【公演団体名】

公益社団法人観世九臯会

】

【本事業を通じて実現したいこと】

●伝統芸能を鑑賞する機会として。

・約650年の歴史を有する日本の伝統芸術である能楽は、小学校の国語や中学校の音楽の教科書に取り上げられていますが、小・中学生ばかりでなく、先生方も能楽を鑑賞・体験する機会がなかなか得られないのが現状のため、実際の伝統芸能に触れる機会を持ってい頂く機会としたいと考えます。

●子供たちの感性を引き出す機会として。

・本事業を通じ、能と狂言を学び楽しむことで、能楽の想像力、空想力を学び、古今変わらぬ人のつながりや行動を知り、古に思いをはせ、子どもたちの心と身体に豊かな感性を引き出す一助となることを目指します。

●さらなる国際社会にむけて

・訪日外国人の増加や、海外の方と触れ合う機会が増えている。

・日本人が海外で活躍することも増えている。

そのなかで子供たちが自国の伝統文化について、自信を持ち、話をすることができる「学び」の良いきっかけとなるように導きます。

●授業の補助として。

・先生方も実際に能楽を鑑賞したことが無い方が多いと思います。この事業を通じて体験・鑑賞することで、国語や音楽の授業にその経験を活かすことができる考えます。

・将来的に海外で活躍する機会や、海外の方々と会うことも増えてくることを鑑み、自国の伝統文化を身に着ける機会として活用できます。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

●豊富な学校公演の実績

・出演者、およびスタッフについても、当事業を含め、小学校から大学での学校公演の実施に豊富な経験を持っており、事前ワークショップ、本公演をよりスムーズに実施することが可能です。

・平成27年度より毎年「巡回公演」の実施経験を踏まえ、より円滑に事業を進めるスキルを取得しています。

・実施校との交渉や、実施に向けての実施校との打合せも臨機応変に対応しています。

・実施にあたっての相談等も、観世九臯会事務局が窓口として全面的にサポートを行い、円滑に運営することができます。

・事前ワークショップ、本公演については所属能楽師が、学校の状況や要望に対して臨機応変に対応することができます。

●実施校の負担を軽減。

・舞台の設営や撤収も1時間程度の短時間で簡易舞台を設えることができます。

・体育館等の占有時間を短くでき、授業への影響も最小限で公演を実施することができます。

・道具類の搬入・搬出、舞台の設営等は観世九臯会のみで可能であるため、学校への負担は最小限で実施することができます。

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

本事業への応

●分かりやすい教材と指導
 ・オリジナルのテキストを用意しています。
 写真を多く使用していますので、ビジュアル的により理解しやすくなり、効果的にワークショップ、本公演を楽しんで頂くことが可能です。
 ・ワークショップでは主指導者のほか、補助員についても主指導者と同等のスキルを有する者がサポート致しますので、スムーズに進めることができます。

●実施団体としての実績。

・(公社)観世九皐会では、前理事長である観世喜之が、数十年に渡り地元の小学生のための能楽鑑賞教室を主催するなど、能楽の普及活動にも豊富な経験と実績があります。
 ・理事長である観世喜正をはじめ、観世九皐会所属の能楽師(重要無形文化財総合指定11名を含む16名)が、当事業に積極的に参加及び出演することで、質の高いワークショップ、本公演を行うことが可能です。

●経験豊かな出演者

・出演者のなかには、皇學館大学、法政大学、二松学舎大学等で能楽の講義を行ったり、また、地域の小中学校で能楽のワークショップ等を実施しており、学校での実績も豊富です。
 ・特別支援学校での能楽体験指導を行っている出演者もいます。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

【学校との連絡調整について】

・観世九皐会事務局では、当事業の専任担当が窓口となり、実施内容やスケジュール、学校に準備いただくもの等を書式化しており、メール、電話により、緊密に学校と連絡を取っています。
 ・可能な限り事前打ち合わせに学校へ伺い、事前ワークショップ、本公演に向けて準備しています。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

・小学生には平易な言葉での解説、中学生には演目の歴史的背景をより深く説明するなど、重点を置く内容を考慮しています。
 ・体験では、代表生徒を各クラスから1名以上を選出していただき、また各体験で別の生徒を選出していただく等、より多くの生徒に体験していただくようにしています。
 ・能面体験では、先生にも能面を掛けたり足で歩いていただく等、生徒たちの興味や集中度を切らさないようにしています。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

・小学生では、国語の授業で学習する狂言についての予備学習として、また、中学生では音楽の授業で学習する能楽や和楽器についての予備学習として活用していただくことができます。

リンク先	No.2	【公演団体名】	公益社団法人観世九臯会	】
------	------	---------	-------------	---

項目内容

1. 【演目の鑑賞】

①能「土蜘蛛」、狂言「柿山伏」の実演を鑑賞します。



能「土蜘蛛」鑑賞の様子



3. 【狂言体験】

①生徒全員で、狂言「柿山伏」で登場する動物の物まねや、狂言の笑い方など、狂言独自の所作を体験します。



別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先

No.3-①

【公演団体名】

公益社団法人観世九皐会

】

1. 【能楽について説明】

①能楽について、プロジェクターを使用し、生徒たちにわかりやすく説明します。



テキスト (抜粋)

演目のあらすじ解説では、紙芝居形式の動画としてプロジェクターでも映写します。

項目內容

おとぎのうた 能の歴史を知ろう	おとぎ 能面をみてみよう
<p>能の歴史</p> <p>たくさんの歴史の中、長い、誰もが好きでいい、したい、愛用したいの歴史に「能」の歴史ができました。</p> <p>↓</p>	
<p>②能の歴史</p> <p>能の歴史は、能の元祖、元伊豫子に「能」が生まれたらね、能のや、新しい能にストーリーが入る、「物語」というお芝居が出来ました。</p> <p>↓</p>	
<p>そして能の歴史</p> <p>江戸時代には、公家の「能」(公家の能)となり、能面では能が長生きする性質を利用して、やがて能面文化が出来てきました。</p> <p>↓</p>	
<p>●能の歴史</p> <p>能は、能面で上場されることが多く、能面を描画する早いお絵描として能面しました。</p>	<p>能の歴史</p> <p>下巻13章(能面)には、ユネスコの第一回「人類の口述と無形文化遺産の代表原典」に登録された「能面」が登場されました。</p>
<p>能面</p> <p>能からも能に登場すること</p> <p>1. おとぎのうた「能の歴史を知ろう」(能の歴史) 2. おとぎのうた「能面をみてみよう」(能面)</p>	 

リンク先

No.3-①

【公演団体名】

公益社団法人観世九臯会

】

2.【体験】

<すり足体験>

①全員で、能楽師の指導のもと、すり足を体験します。



<能面をつけて、すり足で歩いてみる>

すり足を学んだあとは、紙製の能面を着けてすり足で歩き、その限られた視界を体験していただきます。

項目内容

